

研究課題：

膀胱尿管逆流症が慢性腎臓病の進展に寄与する因子の検討

1. 研究の目的

膀胱尿管逆流症（VUR）は、小児のおよそ 1%に発症するとされており、特に gradeⅢ以上におきましては、予防的抗菌薬の投与や手術療法が必要となる場合が多いとされております。また、1 歳以下で両側膀胱尿管逆流（VUR）gradeⅢ以上の症例におきましては、慢性腎臓病（CKD）へ進展する恐れもあります。

CKD へ移行した VUR を患う小児におきまして、CKD の重症度と VUR の重症度との相関や、CKD の進行に関わる危険因子を検討することを目的としております。特に、重度の VUR（High grade VUR）における将来的な腎機能の予後因子が判明すれば、今後そのような患者様に対する管理方針に反映することもあるため、有用な情報になると考えられます。

2. 研究の方法

2005 年 1 月から 2024 年 12 月 31 日までの間、VUR を診断された CKD の患者様を対象とします。

診療録から、患者の性別、VUR 診断時の血液検査、尿検査、CKD 発症時の患者背景（年齢・身長・体重、投薬状況など）、最終観察までの腎機能の推移の状況、使用された降圧薬の情報を調べまとめます。

3. 研究期間

倫理委員会で承認を得られた日から西暦 2026 年 12 月 31 日まで。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

2.に記載した項目に当てはまる患者様に対して、カルテの記載および検体検査結果から調べます。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：腎臓科 科長兼副部長 藤永周一郎

研究分担者：腎臓科 医長 櫻谷浩志

腎臓科 医長 横田俊介

腎臓科 医員 松田明奈

腎臓科 医員 坂口晴英

腎臓科 医員 斎藤佳奈子

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、2026年7月31日にまで下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構

埼玉県立小児医療センター

医事担当（代表 048-601-2200）